



Vol. 73
July 2011

ひろしま国際センター会長が交替いたしました

当センターでは、平成23年(2011年)3月23日の理事会において、会長 山内 孝氏(マツダ株式会社 代表取締役会長 社長兼CEO)の後任として、高木 一之氏(広島経済同友会代表幹事、広島信用金庫会長)を、副会長として、黒沢 幸治氏(マツダ株式会社 常務執行役員)を新たに選任いたしました。(平成23年(2011年)4月1日付就任)

山内氏には、平成19年(2007年)7月に会長に就任以来約3年8ヶ月にわたり、国際交流・協力関係の事業推進に加え当センターの新たな在り方検討の推進に尽力いただきました。

<新会長よりひとこと>

ひろしま国際センターは設立から20余年を経て、担うべき役割や機能について新たな方向性を定め、事業の見直しを進める大きな変革の時期を迎えております。

今後も、刻一刻と変化する内外環境と多様化する県民の皆さまのニーズを的確に捉え、国際交流・協力推進の中心組織として、行政、民間企業・団体等各主体と連携し、事業を進めてまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



会長 高木 一之

第4期「ひろしま国際塾」開講！

5月11日(水)に国際理解講座 第4期「ひろしま国際塾」を広島修道大学の金原 達夫教授を塾長としてお迎えし、開講しました。「ひろしま国際塾」は国際理解と友好交流を推進するリーダーを育成するため、大学教授、企業関係者、国際に関する研究者等による講義により、世界と日本の関係を理解する学習の場を提供しています。

今年度のテーマは、「世界の社会格差と教育の役割」。各国で広がりつつある社会格差について、アジア、アフリカ、米国などの事例を取り上げ、人材育成や教育が果たす役割について学びます。

開講式では、金原塾長に「経済発展の中の格差と人材育成」というテーマで講義をしていただきました。格差についての基本的な考え方を分かり易くご講義いただき、今期スタートにふさわしい開講式となりました。



左：開講式の様子

右：ひろしま国際塾塾長
広島修道大学 教授
金原 達夫 氏

(H I C 佐藤)

目次

2面 交流部だより
6面 国際プラザニュース
7面 こちらJICAデスク
8面 サミット加盟団体だより

9面 Upcoming Events News
10面 Hello Hiroshima
12面 H I Cからのお知らせ 他

第4期「ひろしま国際塾」第1回公開講座開催

5月25日(水)に「教育と経済発展—ラオスの事例を中心に—」というテーマで、第1回公開講座を開催しました。公開講座は、無料で受講できる講座です。第1回目は、広島修道大学の豊田 利久教授をお迎えし、教育が経済発展に果たす役割について、先進諸国の歴史についての解説とともに、経済発展の遅れた国ラオスを取り上げご講義いただきました。ラオスについてこれまで触れる機会のなかった受講生も多く、今後注目していきたいという反響がありました。

講座は8月3日(水)まで続きます。次回、第2回公開講座は7月13日(水)に世界銀行 駐日特別代表 谷口 和繁氏を講師にお招きして開催する予定です。

また今期より、全講座とも単科での受講が可能となりました。興味のある講座に1講座単位でお申込みいただけますので、みなさまの参加をお待ちしております。



(H I C 佐藤)

講師 広島修道大学 教授 豊田 利久 氏

第4期「ひろしま国際塾」単科受講者募集!!

- ◆開催場所◆ (財)ひろしま国際センター 交流ホール (広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6階)
- ◆開催日時◆ 開催中～平成23年(2011年)8月3日
毎週水曜日 18:30～20:00
- ◆内容◆ 日程表に記載のとおり
- ◆受講料◆ 一般 2,000円 メンバーシップ 1,500円 大学生・高校生 1,000円
※ 公開講座(7月13日開催)は、無料です。
※ ワークショップは、7月27日、8月3日の2日間に渡る開催につき、2回で1回分の料金です。
- ◆お問い合わせ◆ 交流推進課 佐藤 TEL: 082-541-3777

●日程表(7月以降) ※日程等については講師の都合により変更することがあります。

月	日	内 容	講 師	
7	6 (水)	「バングラデシュにおける国際教育協力の実践」	馬場 卓也 教授	広島大学
	13 (水)	第2回公開講座 「世界の社会格差と世界銀行の役割」	谷口 和繁 駐日特別代表	世界銀行
	20 (水)	「草の根国際協力の現場報告 ラオスでの人材育成」	富永 幸子 代表	国際 NGO IV-Japan
	27 (水)	ワークショップ (第1回)	堀田 直揮	(社) 青年海外協力協会 事業部課長
8	3 (水)	ワークショップ (第2回)		

平成23年度「ひろしま国際交流・貢献 親睦の集い」開催



来賓挨拶 広島県地域政策局
国際部長 橋本 康男 氏



一般社団法人 教育ネットワーク中国
代表理事 市川 太一 氏
(広島修道大学 学長)



広島県商工労働局
海外展開・投資誘致部長
新林 睦士 氏

6月2日(木)に「ひろしま国際交流・貢献 親睦の集い」を開催しました。例年開催しているこの集いも今年で13回目を迎えました。当初小規模な会から発足した集いですが、今年は国際交流・貢献活動に携わる広島県・広島市などの行政関係者、大学関係者、国際交流支援団体の方々や留学生支援を担当しておられる地元企業の方々などから、総勢90名もの多くの関係者にお集まりいただくことができました。

懇親会の合間には、広島県の国際施策やひろしま国際センターへの期待、また今年4月に設立された留学生活躍支援センターの紹介及び海外ビジネス事情の紹介について、それぞれの分野で活躍されている代表の方にお話しいただきました。異なる視点で取り組まれているホットな情報に参加者の皆様も深い関心をもたれたようでした。

昨年に比べ、参加者が20名程度増えたこの集いは、懇親会開始から活発な情報交換や交流が図られ、大盛況のうちに幕を閉じました。

(H I C 野口)



広島経済大学
教授 上田 みどり 氏



活発な交流の様子

「ひろしま多文化共生連絡協議会」開催

5月26日(木)にひろしま多文化共生連絡協議会が開催されました。

この会議は、県や市町、国等の関係機関が連携し多言語による情報提供や相談対応の体制整備、日本語学習の支援等、外国籍県民が社会に参加し活躍できる環境づくりの推進を目的として平成18年(2006年)から毎年開催されています。

今回も入国管理局や労働局、各市町等から合わせて35名の方々が参加され、取組み状況の報告や意見交換を行いました。

H I Cからも昨年度の外国人相談窓口の利用状況や本年度の相談窓口体制について報告を行いました。

また、本年度4回にわたり開催される外国人相談・日本語学習支援窓口担当者研修会を実施するに当たり、各市町の担当者同士が顔を合わせる良い機会にもなりました。

およそ1時間ほどで会議は終了しましたが、終了後も名刺交換をする姿が見受けられる等参加された方々にとって大変有意義な時間となりました。

(H I C 當麻)



協議会の様子

能楽鑑賞教室

5月23日(月)に(財)ひろしん文化財団様の主催事業である「青少年のための能楽鑑賞教室」に昨年に引き続き今年もご招待いただき、広島県在住外国人の方々と日本人のグループ、5カ国計27名の方々が能舞台上で演じられる美しい「能」と「狂言」を鑑賞しました。

「能・狂言」は、ユネスコから世界の無形文化遺産に選定されています。古典的題材を取り上げて幽玄美を求めた歌舞劇が「能」

であり、「狂言」は能のふるい落とした滑稽面を日常的なできごとを題材として表現するせりふ劇です。

最初に「呼声」という狂言を鑑賞しました。無断で旅に出かけ帰ってきた太郎冠者を叱りに家に行った主人と次郎冠者が、居留守を使う太郎冠者に呼声の調子を変えて、居留守を見破り、さらに逆手にとった一連の出来事を描いた作品です。

次に鑑賞したのは「殺生石」という能です。昔、悪事を働いていた九尾の狐が殺生石という石に姿を変え、なお悪事を働いていたところ、玄翁和尚がこの殺生石を供養し、鎮めさせるという物語です。

当日は、最前列の席を用意していただき、華麗な舞と鼓の音色の美しさに参加者のみなさんは大満足な様子でした。参加された外国の方々からは「初めて見た能楽にとっても感動しました」「日本伝統の衣装、音楽、歌は素晴らしかったです」などの感想もいただきました。



舞台の前で記念撮影

(H I C 大辻)

～ H I C外国人総合相談窓口 専門相談員紹介 ～

H I Cは広島県内で暮らす外国人の皆様が、安心して暮らしていただけるよう「外国人総合相談窓口」を開設しています。この窓口では、在留資格や社会保険・労働問題などの専門的な相談や暮らしに関する相談を、中国語をはじめとする6カ国語で提供しています。

71号（本年1月1日発行）より、窓口で相談業務に携わる専門相談員の方々をご紹介しますが、今回は第3弾をお届けします。



外国人総合相談窓口

【相談体制】

相談時間（火・木） 9：00～12：00、13：00～16：00
（土） 9：00～12：00

（専門分野）

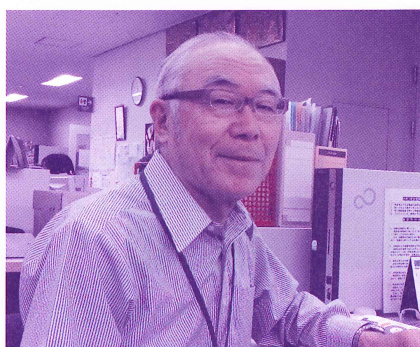
在留資格(VISA他)、社会保険、労働問題

（通訳）

・中国語	・ポルトガル語
・韓国語（木）午前のみ	・スペイン語（木・土）午前のみ
・英語（土）のみ	・フィリピン語（火）午前のみ

フリーダイヤル 0120-783-806
携帯電話からは 082-541-3888（直通）

- ①名前（ふりがな）／ 国籍
- ②専門分野・対応する相談内容資格など
- ③専門分野に取り組んだきっかけ
- ④専門相談受付日時・相談内容
- ⑤ひと言



①森行 勅介（もりゆき ときお）／ 日本

②・ポルトガル語通訳

・在留資格、労働問題、社会保険、医療福祉、結婚離婚、教育、事件事故、人権問題

③現役時代、15年にわたりブラジルの各地で火力発電所の建設工事に従事し、数多くのブラジル人と交流し心のふれあいを経験した。その過程でブラジルの文化、習慣、ものの考え方を学び、ポルトガル語を習得した。

定年後は、JICAのシニア海外ボランティアとして、7年間ドミニカ、ホンジュラス、パナマで技術移転活動に従事した。大使館の草の根資金を活用して地方の生活環境の改善に取組み、その過程で現地の人々から色々な事を学び、彼等と心の交流に努めた。

④毎週火・木曜日 9：00～12：00、13：00～16：00 土曜日 9：00～12：00

⑤広島には、多くのブラジル人が暮しているが、日本語が正確に理解できない為に役所の手続きに困ったり、社会保険、学校教育、医療福祉等の書類作成に難渋している。彼等の立場に立って、彼等の抱えている問題を解決できるよう全力でサポートしたい。HICには、経験豊かな労働問題、在留資格の専門家がおりるので、彼等と協力して問題を迅速に解決できるよう努めていきます。

①長尾 理枝（ながお りえ）／ 日本

②・外国の方が日本で居住・生活するために必要な在留資格（VISA）や国籍取得（帰化）、国際結婚や離婚、起業などに関する手続き業務、それに関連する内容の相談

・行政書士・NPO法人ビザサポートセンター広島所属

③以前より多文化共生に関心がありましたが、VISAに関し困っている方が多いことを知り、積極的に取り組むようになりました。

④毎週火曜日・木曜日 9：00～12：00 土曜日 9：00～12：00

⑤私は海外で生活したことはありませんが、もし自分が海外で生活することになったら、どんなにか心細いだろうと想像します。そんな自分を思い浮かべながら、外国から来られた方の不安を少しでも解消できればと思い、相談に対応させていただいています。お気軽に声をかけてください。



ワールドクッキング教室受講者を募集中

世界の料理や文化を気軽に体験することができるワールドクッキング教室は、引き続き前期の受講者を募集中です。教室は月1回で、火曜日クラス・木曜日クラスの2クラスです。受講料は3回で4,500円です。

興味のある方は是非、お問合せください。

【参考～前期開催内容】

	第3回 7月	第4回 8月	第5回 9月
日 程	①12日 ②14日	①9日 ②18日	①13日 ②22日
料 理	イタリア料理	トルコ料理	マレーシア料理

※後期分(11月～3月)は、9月下旬から募集します。

※日程や料理は、事情により変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。



平成23年5月 パキスタン料理

“世界を「見る」「知る」「体験する」” 開催

7月16日(土)・17(日)に“世界を「見る」「知る」「体験する」”をひろしま国際プラザにて開催します。

世界の現状・文化・生活がもっと身近に感じられるイベントです。

「見る」コーナーでは、パネル展示、世界の国旗の展示を行います。「知る」コーナーでは、ワークショップ、ステージ発表、クイズラリーを行います。「体験する」コーナーでは、民族衣装の試着、クッキングレッスン、会話レッスン、民族楽器の体験等ができます。

さらに、世界50～60カ国の絵本展示、絵本の読み聞かせ、かえっこバザール(お金を使わないお買い物ごっこ)、各国料理のバイキングも楽しむことができます。また、保存期限が過ぎた外国語新聞・雑誌を無料で提供するリサイクルフェアもあります。なお、絵本の展示についてはこのイベント終了後も引き続き24日まで情報センター・図書館【開館時間：10：30～19：00(平日は13：30～14：30休室)】で開催します。

時間は両日とも11：00から15：00までです。是非、お越しください。



パネル展示

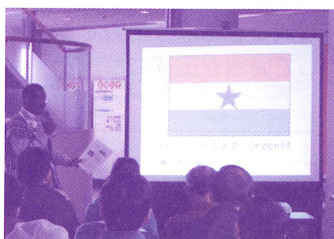


ステージ発表



絵本展示

ねえ聞いて！ワタシのお国自慢



9月17日(土)に「ねえ聞いて！ワタシのお国自慢」を開催します。

ひろしま国際プラザに滞在中の外国人研修員が、映像や音楽を使って母国の紹介をします。発表後は研修員との交流タイムもありますよ！

文化や習慣の違いを知る良いチャンスです。

お誘い合わせの上、お出かけください。

お申込み・問合せ先

財団法人ひろしま国際センター研修部

〒739-0046 東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内

(電話082-421-5900 FAX082-421-5751)

・事務室開室時間 月～金9:00～18:00

・情報センター・図書室開室時間 毎日10：30～19：00(平日は13：30～14：30休室)

URL：http://hiroshima-ic.or.jp/hip/

E-mail：hicc@hiroshima-ic.or.jp



広島から世界へ！ 6月下旬より、青年海外協力隊7人、シニア海外ボランティア1人、日系社会シニア・ボランティア1人の合計9人が、ボツワナ・ネパール・アルゼンチンなど8カ国に向けて出発します！



【青年海外協力隊】（※左から氏名・派遣国・職種）

井上 結子	ボツワナ	村落開発普及員
上野 優香	ネパール	小学校教諭
大宮 加代子	フィリピン	言語聴覚士
澤邊 佳彦	ケニア	生態調査
田村 陽子	エクアドル	養護
和田 絵莉子	セネガル	体育
麓 美奈	エチオピア	理数科教師
【シニア海外ボランティア】		
寺元 正典	ネパール	野菜栽培

【日系社会シニア・ボランティア】

宮野 宏子 アルゼンチン 日本語教育

赴任中の広島県出身 JICAボランティア(人)

	男性	女性	合計
青年海外協力隊	30	32	62
シニア海外ボランティア	3	10	13
日系社会青年ボランティア	0	1	1
日系社会シニア・ボランティア	0	1	1

平成23年5月31日現在

～帰国隊員レポート～

木村光宏さん 平成20年度 ザンビア派遣 理数科教師（現広島大学大学院 国際協力研究科在席）

2011年5月21日(土)、東日本大震災の被災地と世界をつなぐ国際チャリティーイベント「つながり」を、広島大学 学士会館にて開催した。約200人が参加したこのイベントは、震災直後に私たちが設立した「Operationつながり」と、同じ学科に在籍するバングラデシュ人留学生グループなどが協力と呼びかけ、計8カ国の留学生と、協力隊経験者5名を含む約20名の日本人学生が企画に携わった。遠く離れた広島からも被災地支援を長期的に続けていきたいという思いから、広大生が取り組む被災地支援ボランティアの活動紹介や、協力隊経験者やJICA中国の協力を得て、世界からの応援メッセージや被災地支援活動に関する展示を実施した。バングラデシュの留学生代表は、「2007年、バングラデシュでサイクロンが発生し大きな被害が出た際、同大学内で開催したイベントでは多くの日本人が祖国を助けてくれた。今回はその恩返しをしたい」と、イベントに対する思いを語ってくれた。

イベントでは、留学生による世界各国の料理が用意され、伝統ダンスや音楽なども披露された。また別のブースでは、「長期的に被災地を支援していこう」と、たくさんの人たちが復興への願いを込めたメッセージや折り鶴を作成する「SMILESプロジェクト」も実施した。参加してくださった方々のおかげで、イベントは大盛況のうちに終了し、今後の被災地支援に向けて良いきっかけとなった。準備段階では、様々な国の人の意見をまとめるのが非常に大変だったが、協力隊経験でも学んだように、日本人だけで話を進めるのではなく、共にじっくりと話し合い、考えることが大事だと改めて強く感じた。

今回のイベントで集まった寄付金は、日本ユネスコ協会連盟を通じて、被災した子どもたちの教育のために役立てられる。

今後もこのイベントで広がった人と人との「つながり」を生かして、さらに、遠い広島からできる震災支援を模索していきたい。



21.05.2011

<国際協力出前講座>

青年海外協力隊経験者やJICA関係者が、開発途上国や国際協力に関する話を『出前』します。この講座を通じて世界の途上国の現状について一緒に考えていきましょう。学校や地域活動関係者の皆さん、HIC配置の国際協力推進員までお気軽にご相談ください。

<http://www.jica.go.jp/chugoku/enterprise/kaihatsu/demae/index.html>

ひろしま通訳・ガイド協会（Hiroshima Interpreter & Guide Association）は、国土交通省 観光庁所管の「通訳案内士」国家試験の合格者で構成する非営利団体です。広島県の国際化に貢献するため、国土交通省、広島県、広島市、ならびに観光関係諸機関のご協力とご支援を得て、第12回広島アジア競技大会を2年後にひかえた1992年9月に設立されました。

2011年5月現在で166名の会員が在籍。英・独・仏・西・葡・露・中・韓の8カ国語に対応でき、プロの通訳ガイドをはじめ、第一線で活躍する会議通訳者、翻訳者などさまざまな経歴の会員を擁する人材集団です。

通訳ガイド・通訳・翻訳だけでなく、国際客に最前線で接する経験から、どのような接遇や気配りが評価されるのかというコンサルティングのニーズにも対応しています。7つの活動グループがあり、会員は希望するグループに属し、ほぼ全員が使えるメールの交信を駆使して、アイデアを練り企画を実施します。

<各グループの主な活動内容>

- ①学習会：地域と旬の話題をテーマに年3回の実施
- ②マニュアル：ガイドマニュアルの情報管理・最新情報の収集
- ③インターネット：HIGAホームページ作成と改訂・IT講座
- ④研修旅行：広島から行ける1日バスツアーの企画・運営
- ⑤HIGAニュース：広報紙「HIGAニュース」発行（年2回）
- ⑥中国語：中国語マニュアル作成・HP内容検討と情報交換
- ⑦1・2・3年会：入会1～3年目の会員による文化講演会（一般の方も参加可能）の企画・運営



中野うどん学校（研修旅行にて）



2010年度文化講演会

<最新ニュース>

3月11日の東日本震災で、海外からの訪日客は激減しました。幸いにも被害の及んでいない西日本、「広島にいらして下さい」のメッセージを発信したいと、訪日客や会員の写真を添えた“Visit Hiroshima”を8カ国語でHIGAのホームページに掲載中です。どうぞご覧下さい。

HIGAホームページ <http://www.j-higa.net/>



※それぞれの会員限定のものもあります。主催者にお問い合わせ下さい。

内 容

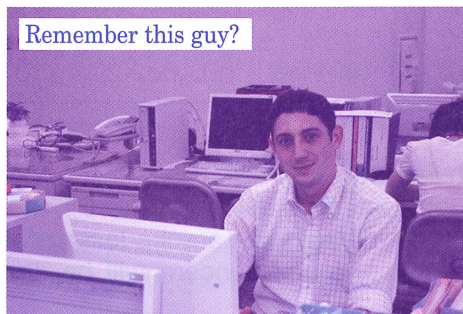
平成23年(2011年)8月分

平成23年(2011年)9月分

—9—

A Long Look Back by Greg Beck

The time has come for me to say goodbye, Hiroshima. I have been living in Hiroshima City for three years, and a member of the Japan Exchange and Teaching Programme (JET), for five years now. I have been allowed to renew my annual contract four times, but because that is the maximum allowed, I will finish my fifth and final year July 30th.

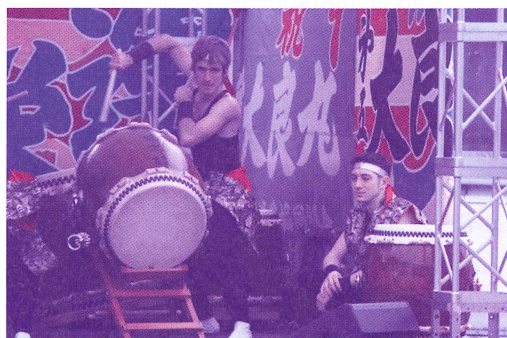


Remember this guy?

This is a photo of me, three years ago, my first month working at the Hiroshima International Center. Before that, I lived and worked in Kure City. For two years, the Kure City Board of Education employed me as an assistant language teacher at 12 elementary and junior high schools. I learned so

much about teaching English as a foreign language, and I also learned a lot more Japanese! But language isn't the only thing I learned living in Hiroshima.

My first year living in Hiroshima Prefecture started in the summer of 2006. I had just graduated from the University of Arizona, in my hometown of Tucson, Arizona. Having passed my interview for the JET Programme, I moved to a small island of the coast of Kure, to a small town of 13,000 people, called Ondo. There wasn't much to do at night in Ondo, but my friend Brian, who lived on the southern half of the island, in the town of Kurahashi, offered to take me with him to taiko practice, so I also joined the group, learned to play the taiko, and performed with the Kiyomori-daiko Group. That winter, I also learned how to snowboard, and joined the snowboarding circle, DSK.



My second year, I moved onto the mainland, and although I did not continue playing taiko, I stayed with my snowboarding circle, and we have gone snowboarding together every winter, since 2007. It was during that second year, that a new English teacher started the "Kure City Ship Heads", a touch rugby team. But I'll talk more about that later...



Having gotten better at Japanese and looking for the next challenge, I applied to work as a Coordinator of International Relations (CIR), and after passing my interview, I moved to Hiroshima City in July of 2008, where I have lived ever since, working for the Prefectural Government, and the HIC.

During these three years, it has been my great pleasure to write the "Hello Hiroshima" articles for the Hiroshima Tsushin every three months. I hope you have also enjoyed reading, and that you have learned a little something extra about Japan by sharing my experiences, or maybe you even practiced your English reading comprehension! Before my final article, I want to say one last thing: Thank you very much Hiroshima! I love the whole prefecture, the people living here, the history, traditions, and food. I will miss living here, and I promise to come back!

A Return to Touch Rugby by Greg Beck

If you can't find a copy of the Hiroshima Tsushin Vol. 63, allow me to review the basics of touch rugby:

Unlike rugby, touch rugby has no tackling, no kicking, and no scrum. Instead of tackling, the opposing team simply touches the player with the ball, and that player must put the ball between their legs, and roll it back for another teammate to pick up to continue play. Meanwhile the defending team must back up five meters before they can touch again. This way, the offensive team has six “touches” to advance the ball down the field, toward their goal zone to score a “try”.

Because there are no tackles, the game is played by men and women together. Each team has six players on the field and most tournaments actually require each team to play with at least one, and sometimes two women on the field at all times. Women and players over 40 are also given two points for a try, instead of one. This adds a level of strategy to the game, while insuring women and older players are kept involved in the game more. The regulation touch rugby ball is also slightly smaller than a normal rugby ball.

So why call it rugby at all? There are still many similarities with rugby. The origins of touch rugby come from rugby teams playing scrimmage drills. If your team practiced with full contact tackling, then your players would be beaten up and injured by the time an actual match happened! Also, there are no time-outs, just like rugby, so the game is almost non-stop until half-time. Players can also only pass backwards, so the offensive push down the field very closely resembles a rugby team.

Shortly after moving to Kure City, a new English teacher in the area with prior experience, John McCarthy, decided to start a team in Kure. Many of our fellow English teachers joined, and some of us invited Japanese friends and co-workers. Add to that some of Kure City's rugby players, and before long we had more than enough members to pay for a field to practice once week in the evenings!

Thanks to our coach and the planning and participation of everyone in the group, our team became more like a family. We did lots of activities together besides our weekly practice: beach barbecues, pub crawls, new year's parties, *hanami*, lots of scrimmage games with the Hiroshima City team, the Hookers and Dummies, and even going to Shimane Prefecture to sight-see and play their local touch rugby team.

By June of 2008, we had enough time and practice together as a team to attend the largest tournament in our region, the Tokushima Touch Rugby Tournament, played at a campground in Shikoku. This two-day tournament has become the high point of our season, and the Ship Heads have represented Kure each time, for the last four years!

This tournament in particular is special, because it is not just a chance to play lots of touch rugby (although we do!). After the first day of games ends, everyone gets cleaned and changed for a huge barbecue!



With delicious food and drinks for over a hundred players from teams all over Japan, the atmosphere is lively, and loud with the voices of people from dozens of different countries, including Japan, all having fun and interacting with one another.

This year it rained...hard! Not just on the first day, Saturday, May 28th, but Sunday, because of a passing typhoon, the second day of the tournament had to be canceled because the rain and thunder was just too strong! Even still, everyone had an amazing time and I am sure if you go next year, you will still see the Kure Ship Heads playing their hearts out!

Hiroshima Calendar

Date	Event	Location
July		
23-24	Setstock '11 - Two-day outdoor music festival	Shobara
23,30	Fireworks Tournaments begin all over Hiroshima Prefecture!	Hiroshima Port, Onomichi, and Kure
Aug.		
Week-ends	Fireworks Tournaments continue all over Hiroshima Prefecture, every weekend! Check your local listings.	Osakikamijima, Miyajima, Sera, Shobara, and Akiota
27	Marine Samurai Fire Festival and Fireworks!	Innoshima, Onomichi
Sept.		
17-18	Festa De Rama - Two-day outdoor music festival	Miyajima
23	Brush Festival and Calligraphy Tournament	Kumano

Editor's notes:

Summer is here! Time to wear Yukata and support our sports teams by enjoying the Toyo Carp Baseball and Sanfrece Soccer games! It's also time for me (Greg) to say "Thanks for everything, Hiroshima! I'll see you again one day!" If you have any questions or comment, please email me at hic05@hiroshima-ic.or.jp

H I Cからのお知らせ

■メンバーシップ(会員)を募集中!

ひろしま国際センター(HIC)では、HIC事業に参画し、ご協力をいただくメンバーシップ(会員)制度を設けており、会員を募集中です。会員の皆様から頂いた「メンバーシップ(会員)会費」は、HIC交流サロンの運営やふれあいコーナーの雑誌・新聞、日本語教材の購入など、HICの実施事業に幅広く活用させていただいております。

今後、事業の一層の充実を図ってまいりますので、メンバーシップ(会員)へ継続加入いただきますとともに、お知り合いの方などに、国際交流・協力にご興味をお持ちの方がおられましたら、是非お声をおかけくださいますよう、ご協力をお願いします。

- 年会費 個人1口 2,000円(外国人留学生1,000円)
団体1口 10,000円

- 会員特典 「ひろしま国際塾」や「HIC交流サロン」等の事業に参加いただく際に、参加料の減免、会員限定などの特典があります。また、旅行代金、海外旅行用品、ホテル宿泊料金の割引などの特典があります。その他、センター機関誌等を送付し、各種国際交流事業等の情報提供をさせていただきます。

- 有効期間 会費をお支払いいただいた日から1年間

～口座振替サービスのご案内～

会費の納入が口座振込でもできるようになりました。振込のために金融機関に向く手間が省けるうえ、これまでどおり振込みに係る手数料は無料となっておりますので、是非、便利な口座振替サービスをご利用ください。

- 振替日 10月1日(銀行休業日の場合は翌営業日に引落します)
- 利用対象者 広島銀行に預金口座をお持ちの個人会員

※詳細についてはHIC交流部までお問合せください。

財団法人 広島国際センター

〒730-0037

広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6階

Crystal Plaza 6F, 8-18 Nakamachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0037, Japan

ご質問・ご意見などご遠慮なくお寄せください

Any questions, suggestions, and criticism regarding HIC Tsushin can be addressed to:

TEL : (082)541-3777 FAX : (082)243-2001

URL (Japanese) <http://hiroshima-ic.or.jp/>

(English) <http://hiroshima-ic.or.jp/hice>

E-mail: hic@hiroshima-ic.or.jp

